国臨協関信

H.P:http://www.alpha-net.ne.jp/users2/kansinko/
パスワード：kansin

平成21年３月
事務局　〒162-0052 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療センター戸山病院臨床検査部内
発行者　三浦隆雄
編集委員　渡司博幸・峰岸正明・深澤文子
久間修平
印刷所　東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

第37回　国臨協関信支部　学会・総会告示

会員各位　　支部長　三浦隆雄

第37回 国臨協関信支部学会・総会

「原点に立ち返り、未来を考える」

日時：平成21年９月５日（土）　場所：国立国際医療センター戸山病院

第37回 国臨協関信支部学会演題募集のお知らせ

一般演題を募集いたしますので、会員皆様の多数の発表をお願いいたします。申し込みは、官製ハガキまたは、E-mailでお願いいたします。

発表形式については学会事務局に一任させていただきます。

尚、整理の都合上申し込み期限の厳守をお願いいたします。

1．申し込み方法

官製ハガキまたはE-mailにて下記のように記入し申し込んでください。

◆記入例◆

演題名：TP試薬の検討
分　類：生化学
施設名：〇〇病院
氏　名：国臨協　太郎
連絡用メールアドレス：
aaa@aaa.aa.go.jp
(プライベートアドレス可)

＊分類は、一般、血液、免疫血清、生理、臨床化学、システム、病理（細胞診）、輸血、微生物、その他より選択してください。

申し込み頂いた個人情報につきましては、学会用のみに使用し、ご本人の同意を得ずに第三者には提供いたしません。メールアドレスについてもご本人との連絡用のみに使用いたします。

詳細については、国臨協関信支部ホームページで確認してください。

国臨協関信支部ホームページアドレス
http://www.alpha-net.ne.jp/users2/kansinko/

2．一般演題申込期日

平成21月4月20日（月）必着

3．抄録原稿締め切り期日

平成21年5月22日（金）必着

4．抄録原稿作成・送付の手引きは、申込者ご本人にE-mail等でお送りいたします。

5．演題募集要項

1）演者は1人1題とさせて頂きます。
2）他学会との重複発表は控えてください。
3）同施設での類似演題は控えてください。

6．演題申し込み・抄録原稿の送り先

〒157－8535　東京都世田谷区大蔵2－10－1
国立成育医療センター　臨床検査部
山崎　茂樹　TEL 03－3416－0181内線2620
E-mail　yamazaki-sg@ncchd.go.jp

合同交流会のお知らせ

■日時：４月25日（土）■時間：14：00～16：30（受付13：30～）
■場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

臨床検査技師長・副臨床検査技師長　合同研修会報告

ＮＨＯ長野病院　児　玉　徳　志

平成21年１月31日（土）国立国際医療センター（国際協力局５階大会議室）に於いて国立病院臨床検査技師長協議会主催、臨床検査研究会共催で臨床検査技師長・副臨床検査技師長合同研修会が開催された。最初に東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授の戸塚実先生より「それぞれの臨床検査技師に求められるのは何か？」と題してご講演があり、「臨床検査技師の未来を担う後進が育成するためには良き管理者、教育者、スペシャリスト、ジェネラリストが揃って達成できる。」というお話がありました。また、「多くの若者は大きく成長する素因を十分に備えているが、種の段階から自ら育つことは多くはない。地上に芽を出し、ある程度大きくなるまでは水や肥料を与えることが必要である。そして、やがては自ら大きな花を咲かせてくれ、ふたたび肥沃な土地と種を残してくれる。（抄録より抜粋）」そのような若者に出会い大輪の花のホコロブ姿のお手伝いができれば…と思いました。引き続き、永井　正樹　臨床検査専門職よりブロック事務所伝達がありました。昨年の関信支部で起こった輸血事故、1月に新聞報道となった国立循環器センターでの検体取り違い事件を例にインシデントに対する注意喚起がありました。また、検査試薬の共同購入のブロック間の価格の違い等について詳しい説明がありました。私にとって有意義な時間を過ごすことができました。

この会を主催した技師長協議会の役員の先生方と臨床検査研究会のスタッフに感謝いたします。

輸血研修会に参加して

ＮＨＯ水戸医療センター
萩　原　　淳

平成21年1月31日（土）国際医療センター戸山病院において、国臨協関信支部、関信ブロック臨床検査専門職、国立病院臨床検査技師長協議会関東信越支部主催による輸血研修会が開催されました。開会に先立ち永井臨床検査専門職より、関信管内で起きた輸血事故の概要について説明があり、身の引き締まる思いで研修会に臨みました。

今回のテーマは「輸血事故防止」で３名の講師の方にご講義いただきました。まず「医療事故防止対策」について国際医療センター戸山病院の真鍋先生より講義がありました。輸血事故の事例に対する各施設からの指摘事項について解析した後、輸血事故防止のためのチェック・ポイントをまとめて発表していただきました。血液型検査時のダブルチェックの徹底、交差適合試験時における血液型確認の徹底など、やはり基本は検査時に必ずマニュアル通りに実施することが事故防止につながることを再確認しました。続いて「輸血事故防止のためのリスクマネジメント」と題して、都立駒込病院の比留間先生より講義がありました。ABO不適合輸血の発生頻度や死亡率など統計的な説明の後、実際に不適合輸血をした場合、体の中ではどのような反応が起きるのか、その病態や反応の機序、反応後の症状等について分かり易く教えていただきました。後半は「輸血マニュアルの強化」についてNHO東京医療センターの深澤先生より講義がありました。実際に東京医療センターで使用されているマニュアルを紹介していただき、たいへん参考になりました。

今回の研修は、あくまでも他施設で起きた医療事故という認識ではなく、自施設であればどう対応していくのか、と受け止めることが大変重要であると考えました。「輸血事故防止」に対する取り組みにさらなる努力をしていきたいと決意をしています。

最後に、お忙しい中ご講義をして下さいました諸先生方に深く感謝を申し上げますとともに、研修会の開催にご尽力下さいました皆様に厚くお礼申し上げます。

退官によせて

退官によせて

国立障害者リハビリテーションセンター病院　石　井　　昇

昭和55年に、期待と不安の混ざり合ったなか、採用試験を受けた日を、昨日の事のように思い出しました。その当時は、臨床検査に精通された先生が大勢おられ、多岐にわたり指導していただきました。いかに多くの項目をルーチンに取込めるか？分析値をいかに早く返送できるか？という事が重要視されていました。マス（Mass）の時代であったと思います。

今までに多くの思い出がありますが、とりわけ病院機能評価（Ver 5.0）の、認定が得られた時の印象は強く残っています。機能評価の経験が無いうえに、作るべきマニュアルは沢山あり、どうしたものかと悩みました。幸い、国臨協本部の監事に任命されていたので、その関係の方々、先輩、技師、など多くの方に援助していただきました。とても心強かったことをよく覚えています。

これから、ますます厳しい環境になると予測されます。ともすれば、連絡等は、便利なメールで済ませる傾向にありますが、時には直接の会話が思わぬ「潤滑剤」となります。他部署との人脈も大切にして下さい。

最後に、これまで支えてくれた方々に感謝するとともに、関信支部役員、会員、の皆様の健康と更なる発展を祈念いたします。

退官によせて

ＮＨＯ横浜医療センター　高　崎　郁　代

この3月31日付けで横浜医療センターを退官致します。

長い間ご指導頂いた多くの皆様に心より感謝と御礼申し上げます。前施設（国療箱根ＨＰ）に昭和49年11月採用になりました。賃金職員を何年か経験してから職員に採用されるのでなく、技師仲間の紹介で面接に行き、すぐに採用の運びとなりました。2人の子供の出産、子育てをしながら、横浜から片道43Ｋｍの長距離を毎日車通勤しました。療養所という事情、しかも傷痍軍人さんの療養施設という事で患者さんが奥さんと一緒に生活を共にする病棟があり、患者さんの奥さんたちは庭に季節の花をそだて楽しんでいました。

高台にあるその病棟からは小田原市街を一望でき、昼休みなどはそこに遊びに行ったりしたものです。今では考えの及ばぬほどのんびりとした勤務でした。

現在の横浜医療センターへの転勤は平成3年10月でしたが、やはり療養所から病院、検体数は驚くほど多く最初は戸惑いました。検査科の皆様に助けてもらい又お世話になった日々を懐かしく思い出します。平成16年から独立行政法人化され更に厳しさを増し次々と難問が押し寄せて来ました。現在は新病院の建設に向け大変な時期にありますが、私は退官となります。この困難を検査科員一同、力を合わせ乗り切り、新しい時代にあった運営・経営の出来る力強い検査科となって発展していきます様お祈りいたします。

今後も国臨協の会員の皆様のご発展、ご活躍をお祈りいたします。

退官によせて

国立がんセンター中央病院
伊　東　ひろ子

２月初旬、「退官にあたり」と言う趣旨で原稿依頼をいただきました。振り返れば国立病院に勤務して32年です。下志津病院に22年、がんセンター中央病院に10年勤務しました。下志津病院では、沢山のことを学び、経験しました。平成６年の検査オーダリングシステムの構築は大変でしたが、医局と検査科が一丸になって取り組んだ事業で、今では懐かしい思い出です。

また、一技師である私に３年もの間、主任研究員として「喘息発症とマイコプラズマの関連」のテーマで研究の機会を与えていだだき、貴重な経験を得ることができました。そして、この研究論文が日臨技会長賞を受賞し、さらに、認定臨床微生物検査技師の資格も取得することができました。当時の上司の青木技師長、西牟田先生（現：名誉院長）他、小児科の先生方の援助と指導のお蔭と感謝の念で一杯です。

平成11年４月、がんセンター中央病院に転勤となり、一般検査を経て微生物検査の業務に就きました。がん専門病院の特徴と思われますが、「病原性が無い、不明」と言われる菌が、血液培養やドレーンから検出されるケースが頻繁にあり、その評価に悩むことの多い日々でした。勉強会、学会、講習会に可能な限り参加して、知己を得た方々に助けられながら微生物検査業務で定年を迎えられることを嬉しく思います。これからも院内感染を水際で防ぐ、耐性菌の１例目を見逃さない微生物検査室であって欲しいと願っています。

退官によせて

国立国際医療センター国府台病院　高　野　康　壽

私は、昭和48年10月16日に千葉病院と佐倉療養所の併任職員で採用予定でしたが、採用延期となり昭和49年２月16日付けで正式採用になり千葉病院と佐倉療養所を１日おきに２年間勤務し、その後佐倉療養所勤務となりました。そして昭和54年４月１日佐倉病院の開院と同時に出向となりました。昭和48年当時はオイルショックの影響で物が不足し、夜のテレビ、ネオン広告等が早く消えた時代でもありました。また、検査部門でもドル減らしの影響を受け外国製の医療機器を導入するよう指導を受けた時代でもありました。このような世の中でしたが、検査室は依頼書、報告書、台帳等は手書きで記入していましたが検体数は右肩上がりに年々増加傾向にありました。

検査部門は検体検査と生体検査が車の両輪のような存在ですが、まだまだ、検体検査をブランチ化にすることが医療の質を高めるといった考えがみられます。数ヶ所の施設を転勤、移譲等で出向しましたが、良き上司、先輩、同僚に恵まれ御指導を受け幸せな勤務生活でした。今年の３月を持ちまして定年を迎えますが、最後の施設の国府台病院では、移譲の一歩手前までいった寸前で、国際医療センター国府台病院として残れた事など最後の数年は、医療を取り巻く環境がいっそう厳しくなってきたことを肌身で感じました。

最後になりますが、これからの国臨協関信支部の御発展と会員皆々様のご健康とご活躍を祈念いたしまして、退官の挨拶に代えさせて頂きます。長い間、ありがとうございました。

昭和47年4月国立小児病院研究検査科に採用され、国立横須賀病院、国立東京第二病院（東京医療センター）、国立成育医療センターと37年間にわたり国立病院に勤務させていただきました。

小児病院の研究検査科技師長は故青木義雄技師長で近衛師団出身ということもありまして、威厳があり怖い存在でした。学生時代苦手の教科、病理を担当、小児の剖検も400体を超えましたが、一向に薄切がうまくならず8年目に細菌検査室にローテーション。この細菌も苦手な科目でしたが実際に業務に就いてみると奥が深く、青木技師長が永年手懸けておりました「黄色ブドウ球菌の薬剤感受性とphage型別の年次的推移」の研究業務の手伝い、技師長退官後の研究継続、学会発表と私が今日感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）の資格を得、微生物検査業務に携わることができましたのも、この事が原点となります。

思えば認定取得が50代半ばと遅く、頭脳明晰の時期は疾うに過ぎており、もどかしさを感じることが多々ありました。今の若い方々には多くのチャンスがいつでもあります。是非認定試験にチャレンジされ、充実した技師生活を送れるように頑張っていただきたいと切に願う次第です。

定年まで実業務に就くことができました。これもお世話になりました多くの技師長と諸先輩のご配慮、同僚のご協力によるものと深く感謝し、ここに厚く御礼申し上げます。

最後に国臨協関信支部の益々の発展と会員の皆様のご多幸とご健康を心より祈念いたしまして、御礼の挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

退官によせて

国立成育医療センター
小　坂　　諭

団塊の世代３番手、ベビーブームの受験地獄を味わう中で青森県南の片田舎から上京、川崎の技師学校に入学しました。耐乏生活ながらも楽しい青春時代を送った思い出があります。卒業当時の検査業界は成長期で今般とは全く違い、求人も売り手市場で就職先を選べた時代でした。

退官によせて

ＮＨＯ相模原病院　杉　本　　仁

昭和50年、国立相模原病院に採用されてから国際医療センター・東京医療センター再び相模原病院での勤務となり、今年度定年を迎えることとなりました。長いようでもあり短いようでもあります。勤務当初は生化学検査室に配属され、いくつかの部署を経て一般検査となり一番長く担当することとなりました。また、厚臨協関信支部と本部の役員を務めた際には様々な経験をさせていただきました。体調を崩し入院することも多く、諸先輩や同僚の方々のご支援を数多く頂き、その中で勤務できたものと感謝しております。

このような入院中のことですが、何かのお役に立てばと思い経験を書かせていただきます。医療従事者ではなく一患者としてのことですが、それは消化管からの多量出血で目もみえず、もちろん話すことも出来なくなった時のことです。後に、カルテをみたら血圧測定不能・脈触れずと記載されていました。このような時に、血管確保のため切開すると医師が相談しているのが聞こえました。その話は、意識が無いから麻酔は不要ではないかということでした。私は「麻酔してくれ」と心で叫びましたが声が出ません。結局、麻酔なしで切開されてしまいました。このような状態でも、意外と意識はあり周囲の会話を理解していることもあるので、患者様のそばで不用意な発言には注意して頂きたいと思います。心の隅にでも留めていただければ幸いです。

退職後は、小さな庭で草木を相手に楽しもうと思っております。本当にお世話になりありがとうございました。

私の37年間勤めた想い出を振り返ってみますと、昭和46年に父の勧めで栃木病院に採用となり、最初は血液検査に配属されました。当時は自動血球計数装置の無い全て用手法の時代でしたので、メランジュールなどを使い、小さな血小板なども眼で数え、早く結果を出すため、無我夢中でした。また、先輩の颯爽と働く姿は、私にとっては憧れでした。やっと慣れた頃、今度は生化学検査に配置換えになりました。当時の生化学検査は包括などなかったので１項目当たりの点数をそのまま計上でき、検査科の稼ぎ頭となっていました。ここでもまた目の廻る忙しさでした。試験管立てに試験管を並べ、そこに試薬をピペットで分注する操作を、手作業で行っていました。機器と名の付くものは比色計と電解質の炎光光度計くらいでした。その後、少しずつ自動化は進みましたが、機器に故障があったときなどは、簡単な修理やランプ交換などの保守点検が出来ないと１日が終わりませんでした。その後、生理、免疫、細菌検査を経験し、病理以外37年間仕事に励んでまいりました。それから、私の勤め始めたころは衛生検査技師でしたが、法律で臨床検査技師に変わることになり、講習会などにいって勉強したことも懐かしい思い出です。また、働きながら臨床工学士の免許も取得出来たことも私にとって恵まれていました。今思えば多くの方が転勤でご苦労されている中、栃木病院一筋に頑張って来られたことを幸せと感じています。

親子二代臨床検査に携わってきましたが、退職後は栃木病院に奉職できた事を誇りに思い、趣味である園芸に勤しみ、花に囲まれながら第二の人生を楽しもうと思っております。

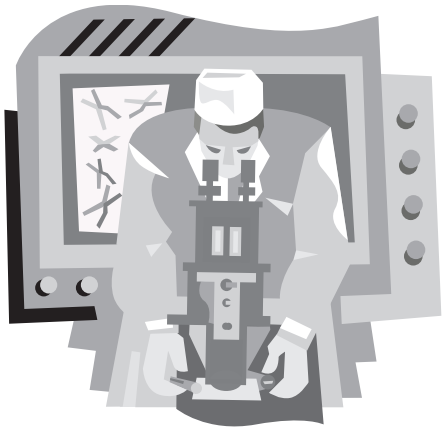
最後になりますが、国臨協関信支部の益々のご発展と皆様方のご健康、ご多幸を祈念し、退職のご挨拶とさせていただきます。

退官によせて

ＮＨＯ栃木病院
河　田　正　子

この度、平成21年3月31日をもちまして退職となります。

はじめに退職にあたり、多くの諸先輩方の温かいご指導を得て、今日まで仕事を続けてこられたことに心から感謝するとともに、お礼を申し上げたいと思います。



認定資格試験に合格して

認定微生物検査技師試験に合格して

ＮＨＯ西埼玉中央病院
太田和　秀　一

寒さもようやく衰えはじめましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。この度2008年度認定微生物臨床検査技師資格試験に2回目の受験で合格しました。正直試験結果通知が届いた時、受験の手ごたえを思いだし、また駄目だと思って恐々封筒を開けたので大変驚きました。私が認定臨床微生物検査技師の受験を考え審査を受けたのは、2006年に遡ります。自分の今迄の実績と受験資格を照らし合わせ、審査条件を満たしていると思い審査書類を認定微生物検査技師協議会宛に送付しました。暫くすると協議会から封書がきて、演題が1つ過去5年を過ぎていて審査基準に足りないと書いてありました。早速一番新しい別の抄録を送付し無事に審査は通りましたが、申請書類が多くその時緊張した事を覚えています。試験に際して前日に研修期間免除の暫定措置として、講習会があります。その講習会受講が単位取得となり受験資格があたえられます。当日の試験は午前筆記、午後実技で行われます。筆記試験の内容は二級試験と異なり、基礎ではなく実践的なもので患者の臨床的経過を理解する必要があります。例えば設問は症例が多く、感染場所・部位・症状・細菌形態はこうだったので起炎菌を推定せよという問題です。解答はマークシート式で5択、問題によっては2つ選択するものもあります。実技試験は、鏡検・同定・感受性の3つの部門に分かれ、時間で移動する方式です。各部門10問程度あり、とても時間が足りず緊張と焦りで終わりました。試験勉強については何も情報がないため、認定臨床微生物検査技師制度指定カリキュラムで勉強したのですが、試験範囲が幅広く何からやっていいか解りませんでした。今回過去問題の一部(10題)が日本臨床微生物学会のホームページ上に掲載されましたが、基本的には過去問題は入手不可能なので二級臨床検査士試験(微生物)問題を過去5年分勉強しました。

今月から院内の感染管理メンバーとしてICTの会議に参加し、ICMT(感染制御認定微生物検査技師)資格取得を目指して頑張っているところです。最後に技師長ならびに当院検査科スタッフのご協力に感謝致します。

認定輸血検査技師試験に合格して

ＮＨＯ西埼玉中央病院
洞　庭　敬　子

昨年８月、横浜で実施された第１２回認定輸血検査技師資格試験に合格してから早や半年が過ぎようとしています。思い起こせば、当時の奥田技師長から「輸血の認定資格を目指してみないか」と問いかけられたのは、４年前の８月のことでした。「よし、やってみよう！」とその頃心に決めたことが懐かしく思い出されます。

諦めたら終わりだと自分の心に言い聞かせチャレンジし続け３回目、合格した時にはとても嬉しく、原田技師長をはじめ周りのスタッフも自分の事の様に喜んでくれました。認定輸血検査技師を目指した３年間、本当に沢山の事を得ました。資格試験を目標に持つことで、沢山の検査技師の方と知り合いになり繋がりができたこと、何事も考えて日常業務にあたる習慣が自然と身につきました。そして関東各地の勉強会へ参加のため、仕事を度々早退させて頂き、周りのスタッフの協力に感謝するばかりでした。実技では、埼玉病院の岩崎主任、国際医療センター戸山病院の真鍋主任の検査室にお邪魔させてもらい、細かく指導をして頂きました。

今の心境は、認定輸血検査技師となったプレッシャーを感じる日々です。まだまだ経験も浅く、経験しなければわからない怖いこと（？）も沢山あるでしょう。医療の世界は日進月歩で、特に輸血分野は変化が激しい様に感じます。その変化をキャッチするアンテナを常に持ち、臨床にコンサルテーションできる能力を身につけていける様、がんばりたいと思います。

最後に、認定輸血検査技師を目指すきっかけを与えて頂いた奥田技師長、原田技師長をはじめ応援して頂いた検査科の皆さん、実技指導して頂いた埼玉病院の岩崎主任、国際医療センター戸山病院の真鍋主任に心から感謝致します。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

細胞検査士試験に合格して

ＮＨＯ霞ヶ浦医療センター
原　田　哲　也

2005年にこの霞ヶ浦医療センターで採用され、2年間の生化学・免疫血清検査室を経て、2007年にローテーションで病理検査室に配属されました。そこから、細胞検査士修得への道がスタートしました。

最初は日常業務を覚えながら細胞診の基礎を主任や先輩に教わり、婦人科の先生方との勉強会で臨床情報から考えられる事や所見の取り方を学びました。それから、筆記試験の過去問題やスライド試験対策に取りかかり、それと平行してたくさんの標本を鏡検しなくてはと思い、大学の友人を通じ東京医科大学病院に通い標本を見させていただきました。また、水戸医療センターでの合同勉強会や各種勉強会、研修会への参加と休む暇もない毎日を送りました。

あっという間に時間が過ぎ、10月の一次試験を迎えました。当日は緊張状態で頭をフル回転させたため、かなりの疲労を感じました。しかし、翌日からは疲れたと言っている余裕はなく、思いのほか1次試験対策に時間を費やしたため、鏡検量の不足を感じて2次試験対策に取りかかりました。必死で顕微鏡に張り付く毎日を過ごすうちに1次試験の結果が届き、無事突破することができました。

新たな気持ちで目標に向かい、日常の鏡検に取り組みつつ、多数の試験対策セミナーにも参加しました。さらに筑波大学病院やがんセンター中央病院で標本を見る機会を頂き、夢に試験問題が出てくるぐらい必死で勉強に勤しみました。

12月の雨で冷え込む中、待ちに待った2次試験当日を迎えました。開き直っていたため思いのほか緊張感はほとんど無く試験に向かうことができましたが、試験は予想以上に難しく、あまり手応えのない感じでした。しかし、持てる力を振り絞り試験を終えることができました。

試験を終えた開放感と結果に対する不安に包まれながら、日常の生活を過ごしているとついに結果通知が届きました。心を落ち着け封を開けると合格の文字が飛び込んできました。しかし、よく見ると不安要素であった鏡検量の少なさが点数に表れ、紙一重の合格でした。喜んでばかりはいられず、点数の示すとおり知識・技術ともにまだまだ未熟でこれからが正念場であると痛感しました。今後は自己研鑽に励むと共に、これから受験される方へ少しでも役に立てるよう微力ながら協力していきたいと思います。

最後になりましたが、この試験を通じ、多くの方々に多大なるご支援、ご指導をして頂きました。ご尽力頂きましたがんセンター中央病院、水戸医療センターの技師長様をはじめ、各病理検査室の方々、ご協力していただいた皆様に厚く御礼申し上げます

超音波検査研修会に参加して

ＮＨＯ栃木病院
黒　澤　智　子

平成21年1月24日（土）成育医療センターにおいて、国臨協関信支部主催による「超音波検査士認定試験対策」の研修会が開催されました。当日は東京でも雪が舞っており、栃木からの電車は遅れ、私が到着した時には会場はすでに多数の参加者の熱気に包まれていました。

研修会は東京医療センターの佐藤俊行先生による基礎領域に関する講義に始まり、次に千葉東病院の中島亮先生による消化器、東京病院の安藤敏一先生による循環器に関する講義が行われました。午後1時から6時までの限られた短い時間での研修会でしたが、大変中身の詰まった充実した内容でした。

私は現在、生理検査全般を担当しており、特に心臓超音波検査の勉強をしている真っ最中です。昨年の研修会は基礎と消化器の講義だけでしたが、今年は循環器の講義も行われるということで、喜んで参加させていただきました。循環器の講義は、問題を提示し、それを解説していくという形式で行われました。広範囲に亘った全69題の問題を解いていくうちに、自分の勉強だけでは不足していた部分が見えてきました。さらに資料として、問題だけではなく詳しい解説も配付していただけたので、後日見直す時にも大変役に立ちました。

また、講義の中で観察のポイントやピットフォールなどについても教えていただけたので、試験対策の目的だけではなく日常検査においての必要不可欠な知識の取得や整理にも大変役立つ研修会だと思いました。今回の研修会で得たものを確実に自分の身に出来るよう、さらなる努力を重ねていきたいと思います。

最後になりましたが、講師の佐藤先生、中島先生、安藤先生ならびに、このような研修会を企画開催してくださった支部役員の皆様に、深く感謝申し上げます。

国立がんセンター中央病院
只　野　　薫

平成21年1月24日（土）国立成育医療センターにて超音波検査士認定試験対策セミナーが開催され、参加いたしました。セミナーは13時から18時までの５時間で行われ、NHO東京医療センターの佐藤俊行先生に「超音波・基礎」、NHO千葉東病院の中島亮先生に「臨床・消化器」、NHO東京病院の安藤敏一先生に「臨床・循環器」について講義していただきました。

「超音波・基礎」では、まず認定試験の最近の傾向についてお話を伺いました。認定試験を初めて受ける私は、どのような内容が求められるのか、不安に思っていたのですが、要点を絞り分かりやすく説明をしていただき、疑問に思っていた点や押さえておくべきポイントを理解することができました。参考書を読んでもよく分からなかった点も講義を聞くことで自然に頭に入ってきました。「臨床・消化器」では、1時間という限られた時間の中、解剖や超音波所見などについて、42問の問題を実際に解きながら説明していただきました。問題を通してお話を伺うことにより、自分の知識を再確認する事ができました。当院はがん専門病院なので、急性腹症などの症例は少なく、実際の症例を見せていただき、理解が深まりました。「臨床・循環器」は、実際に心臓超音波に携わっていない私にとっては難しく感じられましたが、とても興味深く有意義な時間を過ごすことができ、今後理解を深めていきたいと感じました。

最後に今回のセミナーを企画、運営して下さった国臨協関信支部役員の皆様、またご多忙の中講師をしていただいた佐藤俊行先生、中島亮先生、安藤敏一先生に感謝し、厚くお礼を申し上げます。

人／事／異／動

【平成21年１月１日付　異動者】

氏名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
竹下昌利	西群馬病院	臨床検査技師長	長野病院	副臨床検査技師長
児玉徳志	長野病院	副臨床検査技師長	がんセンター中央	主任技師
益田泰藏	千葉医療センター	主任技師	がんセンター中央	技師
山川博史	がんセンター中央	主任技師	国際医療戸山	技師
熊谷豊	まつもと医療松本	主任技師	高崎病院	技師
吉田茂久	がんセンター中央	主任技師	水戸医療センター	主任技師
萩原淳	水戸医療センター	主任技師	がんセンター中央	主任技師
小澤仁	甲府病院	主任技師	まつもと医療松本	主任技師
山田浩司	国際医療戸山	技師	霞ヶ浦医療センター	技師
小林佑子	高崎病院	技師	がんセンター中央	技師
武田昌基	がんセンター中央	技師	霞ヶ浦医療センター	技師
松本裕美子	西群馬病院	技師（採用）	高崎病院	技師（非常勤）

【平成20年12月31日付　退職・辞職者】

氏名	施設名	役職名	
原和子	西群馬病院	臨床検査技師長	退職
柴田廣子	千葉医療センター	主任技師	退職
小松英子	国際医療国府台	主任技師	退職
川鍋雄司	甲府病院	主任技師	辞職

編集後記

献血者のRho(D)血液型が（＋）であったのに、血液製剤に(－)と誤表記され、そのままRho(D)（－）患者に輸血されたとのニュースが飛び交っています。（日赤に確認したところ、輸血されたのは赤血球製剤とのこと）新聞の論調は、血液センターの検査段階での記入ミス、確認時の見逃しと言っていますが、本当にそれだけでしょうか？輸血実施した病院に責任は無いのでしょうか？輸血を受ける患者に抗D抗体が無ければ、交差試験は合格してしまいます。それが交差試験の限界です。とすれば、やはりRho(D)（－）患者の交差試験時には、割り当てた製剤のRho(D)を再確認する必要があるのではないでしょうか。その時溶血反応が起らなくとも、患者にとっては、赤血球製剤は確実な抗原刺激となってしまうわけですから…。しかし、ピンチはチャンスです。輸血を行なう全ての病院にとって、マニュアルを見直す良い機会になってくれればと願って止みません。　広報部：深澤文子

地区会だより

栃木地区研修会･懇親会に参加して

NHO宇都宮病院　吉　田　龍　矢

８月９日（土）、NHO栃木病院において栃木地区研修会及び懇親会が行われました。

研修内容はデンカ生研株式会社営業本部ワクチン営業部部長の酒井伸夫先生より「インフルエンザ関係情報」と題し講演をしていただきました。新型インフルエンザが社会問題として取り上げられ、その流行が「起こるのかどうかではなく、いつ起こるかが問題だ」と言われています。講演は、過去の新型インフルエンザ流行の歴史や、鳥インフルエンザウイルスに対する消毒法・ワクチンについてなど幅広い内容での話でした。中でも、通常のインフルエンザウイルスと鳥インフルエンザウイルスとの増殖部位の違いが検査の精度に影響することなど、大変興味深い話も聞くことが出来ました。

その後会場を移動し、農林公園「ろまんちっく村」にてレクリエーションが行われました。この施設は農産物の収穫体験や、地域の食材を使った料理が食べられたり、温泉設備も完備した複合施設です。休日でもあり大勢の人々で賑わっていました。私達は体験教室にて銀細工作成を行いました。紙粘土のような材料を好みの形にして焼くことで、純銀製のオリジナルアクセサリーが作れるという内容でした。奮闘の結果、皆思い思いの形の作品が完成したのではないでしょうか。

今回、栃木地区会の活動に初めて参加し大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。今後も地区会活動に積極的に参加し他施設の方々との交流の機会を大切にしていこうと思っています。

最後になりましたが、準備、運営を行っていただいた地区会役員の皆様、講演していただいた酒井先生に心より御礼申し上げます。

ろまんちっく銀細工

ろまんちっくな
栃木地区の皆さん

関信支部長野地区会 学術講演会・定期総会を終えて

NHO長野病院　松　井　孝　男

平成20年12月13日(土)、佐久勤労福祉センター情報研修室にて、第23回関信支部長野地区会研修会および定期総会が行われました。

研修会では学術講演会として永井臨床検査専門職に「検査科運営について」と題しまして、また、元臨床検査専門官の佐藤乙一先生には「医療過誤と関係法規　過去の教訓が暗示している」と題しましてご講演を頂きました。また、関信ブロックより渡司副支部長、北沢理事にもご出席を頂き大変充実した地区会になりました。

始めに、永井臨床検査専門職より業務指導及び連絡事項、各種認定資格取得状況や医師会精度管理報告等のお話を頂きました。また、すでに始まっている検査試薬共同購入の現状までの成果についてもご報告を頂きました。

また、佐藤先生のご講演は、臨床検査に関する過誤の発生要因は、検査精度に関する事柄から、検体の取り違えや結果入力ミスなど人為的なものまで多様である。説明不足や曖昧な説明では誤解や紛争の原因になったりするケース。医療事故の発生で考えられる原因や検査手技上の誤りによって患者に損害を与えた場合の事例。また、検査機器の整備不良や検査データの読み取り間違いや転記ミスで医師の診断や治療を誤らせ、間違った処置で損害を与えた場合。患者に対して不愉快な言動、接遇が悪い場合などの実経験からお話をされました。

学術講演会終了後、長野地区会定期総会が行われました。平成19年度経過報告にはじまり、会計報告、会計監査、平成20年度事業方針が検討され、活発な討議がなされ全てにおいて承認を頂き、新役員を選出した後に終了となりました。

その後、会場を移動した後懇親会を行い、会員相互の親睦を深め大盛況のもと長野地区会の研修会及び総会、懇親会の全日程を終えることが出来ました。

最後に遠路はるばる講師を引き受けて頂きました永井正樹臨床検査専門職と佐藤乙一先生に感謝いたします。

平成21年度　長野地区会役員名簿

会　長	高藤　　博	（小諸高原病院）
副会長	若林　洋志	（東長野病院）
理　事	古田　　学	（まつもと医療センター松本病院）
理　事	青木悠太郎	（まつもと医療センター中信松本病院）
理　事	植松　明和	（長野病院）

「国臨協関信支部ホームページ」に関する重要なお知らせ

平成21年2月1日より、「国臨協関信支部ホームページ」の一部の閲覧に、パスワードが必要になりました。パスワードは　kansin　です。皆さん、ご来訪お待ちしています。